



柏崎市立博物館 学芸員

## 池田 孝博

IKEDA TAKAHIRO

1975年 柏崎市出身  
2002年 学芸員となる

柏崎市立博物館で恒例の冬季収蔵資料展「むかしのくらしと道具」が始まっている。今年のテーマは、子ども時代を支えたモノたち。

戦後、一般の人々が使っていた家具や道具から当時の仕事や暮らしぶり、文化までも感じられる。展示室にはパッチやベークマ、よろんご鉄砲など懐かしいおもちゃもあり、子どもが参加するサイノカミや天神講の様子も紹介する。ほんの少し前の時代までは下駄やゾウリを履いてカマドや囲炉裏で煮炊きしていたことを思うと100年ほどの間に人々の生活はものすごいスピードで変わってしまったことを実感する。

「収蔵資料から昔の子どもたちが家の手伝いをしていた様子がわかる」と話すのは学芸員の池田孝博さん。商家や農家、それぞれの家で手伝いの内容は違うと思うが、荷物を背負うための背中当て(パタ)や木鋤(コスキ)などは小さなサイズもあり、子どもの役割は大切だったことがうかがえる。学校に通いながら手伝いや子守りをし、その合間でも仲間と様々な遊びを楽しんでいた。昔の子どもはなんと遅かったことかと深く感慨を覚える。

さて、今回の展示は博物館定例の冬季

収蔵資料展。総合博物館であるため、あらゆる分野の様々な品物が資料として収蔵されている。例えば木製のものや稲わらで作られたものを収蔵・保管する場合にカビや虫などの心配は尽きないだろう。図書館や博物館、美術館等文化財や資料の収蔵を中心とする施設については各館の環境に応じた総合的な有害生物管理(IPM)が必要となる。当博物館でも清掃や温湿度調節などの環境管理、薬剤などを用いた防除を組み合わせる害虫やカビの被害防止を行っている。池田さんは、文化財IPMコーディネータ、文化財虫菌害防除作業主任者という2つの資格を有し、その対策にも携わっている。

柏崎出身の池田さんは27歳の時、柏崎ふるさと人物館(現在は閉館)で学芸員として採用された。大学を卒業した当時は学芸員の就職が難しく、今とはまったく違う仕事をしていたという。子どもの頃から博物館は身近な場所だったという池田さんは大学時代、学芸員資格取得のための実習先として地元の柏崎市立博物館を選んだ。のちに同僚となる先輩方に付いて1週間研修したことを今もはっきりと覚えているといい、これまでたくさんの先輩方に恵まれ、資料の収集や研究、論文など学芸員の仕事やモノの見方について多くのことを教わってきたと話す。

郷土資料は身近なものほど意識して残しておかないと無くなってしまおうという。しっかりと収集して調査・記録を行い、その成果を展示することで郷土に還元し、地域の人たちに関心を持ってもらうきっかけとなる。将来のために大切に保存し発信していくことも博物館の大切な役割だと池田さんは話す。

令和2(2020)年度 冬季収蔵資料展

**むかしのくらしと道具**  
子ども時代を支えたモノたち

2021(令和3年) **3月14日**日まで 入場無料 \*常設展示は有料

<small>ワーク ショップ</small>	<b>薬のニゴ(志)</b> で 手ぼうき作り
<b>2021(令和3年) 2月6日</b>	<small>9:30~11:30 (定員15名(先着順) 無料)</small>

\*感染症拡大防止のため中止・変更になる場合があります。最新情報はHPでご確認ください

### お問い合わせ

#### 柏崎市立博物館

TEL 0257-22-0567  
営時 午前9時~午後5時(最終入館は午後4時30分)  
月曜休館(祝日の場合は翌日) \*12/29~1/3休館  
入館料 常設展示/一般300円 小中学生無料  
プラネタリウム/一般200円 小中学生100円  
常設・プラネタリウム共通/一般400円